

株式会社エコイン・稲敷はSDGsを支援しています。

(株)エコ・イン稲敷は、顧客・消費者満足・清掃法遵法・廃プラスチックの3R強化などを掲げ 持続可能な開発目標 (SDGs)を私たちが身近な事から実施することが、地域の持続可能な社会の実現につながると考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(=持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs))とは、2015年9月に国連総会で採択された、「2030年に向けて国際社会が持続可能な開発のために取り組むべき17の目標」です。

自社の主なSDGs実施の取り組み



廃棄物の適正処理・資源循環社会・クリーン社会・次世代を守ること！

当社は廃プラスチック中間処理業者として循環型社会実現を推進していく為、再生燃料化(プラネン®)に力を注ぐ。

燃料化にするための破碎選別施設、固形燃料プラネン®生産施設・リサイクルペレット製造機等をすでに運用しており産廃中間処理後最終処分場まで行く量をほぼ90%程度減らすことに成功。

搬入された混合廃プラは最大限に選別し再生原料用、再生燃料用などに分け、プラネン®原料にできるものについてはプラネン®として生産しています。

なお、リサイクル可能な廃プラは破碎・粉碎・再生ペレット機を用いてマテリアルリサイクルに積極的に取り組んでいます。

プラネン燃料及び温水発生装置を運用することで、経済的の面や廃棄物の減量化・最終処分場の残余年数の延命にも貢献しています。このように当社ではまず、自ら実践可能な事から始めております。

9 産業と技術革新の 基盤をつくろう



SDGsの9「産業と技術革新の基盤をつくろう」

(株)エコ・イン稲敷では、産業廃棄物処分以外の分野でプラネン®燃料専用の温水発生装置及び災害時にも役立つ排気熱を利用する発電装置も開発・設計・製作することで持続可能な、産業・技術を強化していくことで産業と技術革新の基盤造りに努力しています。

この温水発生装置や発電機能を持つ温水器の主な燃料は廃棄プラスチックであって再利用できないプラスチックを利用した燃料なのでひっ迫する廃棄物最終処分場の問題・資源利用効率の向上・自社でできる廃プラの削減技術などは環境に配慮したエコシステム(SDGs)だと思い継続的開発を進めています。

以上のように、弊社は国内初の廃プラ燃料専用器開発によって資源の再利用や環境にやさしい温水発生装置、発電装置など開発を続け、再資源化技術も推進していきます。



廃棄物の適正処理・管理を通じた環境への悪影響の抑制

再生利用することで、ただ処分するだけではなく資源を循環し、持続可能な循環社会構築を目指した動きが各所で見られるようになってきているのです。

SDGsを達成するためには、資源消費や産業廃棄物の発生を抑制し、環境や社会に配慮した処理方法が必要になります。産業廃棄物の問題、そして産業廃棄物の処理についてしっかり理解し、できることから始めていくことを心掛けています。

ゴミの増加と共に、深刻度を増しているのが「廃棄物最終処分場」の問題です。廃棄物は収集・処理され、その一部は再資源化されますが、再資源化できないものは、最終処分(埋立)され莫大な管理費用が掛かり土地の再活用までは十数年もかかります。



(株)エコ・イン稲敷では、

3つの重要課題を定め、持続可能な社会づくりへの貢献に取り組んでまいります。

12番目SDGs目標の【つくる責任、つかう責任】

2030年までに廃棄物の削減・発生抑制や適正管理及び3R(リデュース・リユース・リサイクル)実践拡大をする内容が含まれています。弊社では産業廃棄物を従来通りただ処理して最終処分場に埋め立て処分してしまうだけではありません。中間処理による減量化を目指して更なる再生利用及び再利用に不向きな材料を選別し燃料化【プラネン】にすることに力を注いでおり、再生ペレット生産にも取り込んでおります。

人間が生活する以上、大量生産・大量消費型社会の形成によっていずれは廃棄物となり、限りある資源の枯渇や廃棄物量の増加や環境汚染など、さまざまな環境問題になり得ることにつながります。

弊社では廃プラスチックの処理方法及び積極的にマテリアルリサイクル化、すべての廃棄プラスチックの再生利用の推進を通じて、小さな一歩だとしても、自ら実践できることから始めることこそ持続可能な3Rだと思い100%燃料化をめざし廃棄物最終処分場の延命に努力しています。